

# 峰ヶ丘会報

題字 和賀井睦夫 会長

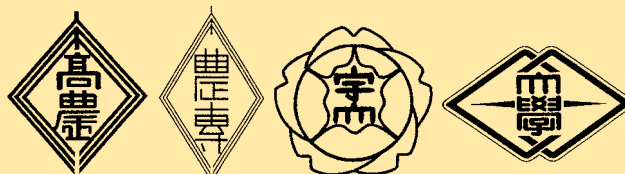
第 154 号 2016 (平成 28). 10. 1



耐震改修された 2 号館 (旧 15 号館)、北側に小道も出来ました。

## CONTENTS

第 4 回ホームカミングデー開催のお知らせ	2
会長挨拶	3
学部長就任挨拶	3
理事長就任挨拶	4
退職の挨拶	5
追悼	6
新任教員挨拶	7
支部総会	8
クラス会	11
平成 28 年度理事会報告	18
お悔やみ	20
決算書・予算書	21
支部長一覧・トピックス	22
お祝い	23
こんなことやってます (応用生命化学科)	24



大11~昭18 高等農林学校 昭19~23 農林専門学校 昭24~36 新制宇大 昭37~ 宇大校章

**MINEGAOKA NEWSLETTER No.154**  
The Alumni Association  
Faculty of Agriculture  
Utsunomiya University  
Utsunomiya 321-8505 Japan  
E-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp

卒業生・教職員・在校生、そのご家族、地域の皆様へ

# 第4回 宇都宮大学 ホームカミングデー



第3回ホームカミングデーの様子



峰ヶ丘祭同日開催

## 2016年 11月19日(土)

～母校で、かけがえのない時間を過ごしていただきたい

「おかえりなさい」の気持ちで、お待ちしております～

### ●プログラム●

◆受付	9:30～14:30	農学部1号館東側出入口
◆学科出合いの会	10:00～11:30	
◆記念撮影・学長挨拶	11:30～11:45	農学部1E11教室(旧3101教室)
◆夏秋農学部長と語る会	11:45～12:30	農学部1E11教室(旧3101教室)
テーマ:「創立100周年をいかに迎えるか」		
◆ウェルカムパーティー	13:00～15:00	農学部大会議室

### ●お申込み方法●

お申込みは、次の1～4のいずれかで、できるだけ事前にお申込みください。

1. 宇都宮大学ホームページ (<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/graduate/homecomingday.php>)
2. FAX (FAX番号: 028 - 649 - 5401)
3. 郵便ハガキ (宛先は下記事務局住所)
4. Eメール (アドレス: nousomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp)

上記の申込み方法2～4に関しては、以下についてご記入ください。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| ①参加者氏名(同伴者人数) | ②郵便番号・住所・電話番号  |
| ③卒業学科名・卒業年度   | ④学科出合いの会の出欠    |
| ⑤農学部長と語る会の出欠  | ⑥ウェルカムパーティーの出欠 |

申込み締切を、10月21日(金)までとさせていただきます。



当日参加も歓迎いたします。



●お問い合わせ先● 〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学農学部  
ホームカミングデー事務局: 028 - 649 - 5410





## 会長挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

和賀井 睦夫 (農昭 25 卒)

同窓生の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、峰ヶ丘同窓会のこの1年をふり返りますと、運営面では財務基盤の一層の安定が求められますものの、概ね、順調に会務を執行することができました。ここに改めて会員の皆様のご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

年1回会報発行の機会でありますので、峰ヶ丘同窓会の現況についてご報告させていただきますと、本年3月末現在の現会員は14,992名でありまして、このうち高農、農専の旧制卒業の方々は947名となっております。

これらの皆さんは、国内では、人数の違いはありますが47都道府県全部に居られ、ご活躍でありまして、うち、41の都道府県には、職域もしくは、地域を単位とする支部が結成されており、会員各位が、母校への思いを共有しながら、互いの親睦交流をはかっておられます。

なお、去る4月の熊本地震につきましては、災害に遭われた熊本、大分、両県支部の支部長さん並びに会員の皆様に対しまして、東日本大震災の際と同様、お見舞いと励ましのお気持ちをこめたお見舞状を差し上げた次第であります。

なお、幸いなことに同窓生で、お命にかかわるような罹災者についての情報には接しておりませんので、ご報告させていただきます。

次に同窓会が行っている会務につきましては、理事会、常任理事会の開催、新入生歓迎会、会報及び4年に1回の会員名簿の作成、発行、学生会員、教員会員に対する、勉学、教育、研究支援制度の実施等々であります。特に今年は、2年に1回大学と共催で行っている第4回目のホームカミングデーを、秋の学園祭期間中の11月19日(土)に実施することになりました。目下、実行委員会を中心に準備を進めており、詳細は左2頁に掲載のとおりであります。

この催しが、卒業生にとって恩師、旧友との出会いの場、交流を、絆を更に深め合う場となり、又、新学部開設等新たな改革への道を歩む母校の近況にもふれて頂く貴重な機会になることを願っております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

最後になりますが、去る6月18日に開催した、平成28年度同窓会理事会におきまして、私こと引き続き、会長職を仰せつかりました。私の個人の心情とは、全く異なるものでありましたが、常任理事会そして、理事会という場での、重いご決定でありますので、向う、2年間、最後のご奉公として、お請けすることになりました。

もとより非才、責任の重さを改めて痛感しておりますが、初心に立ちかえり、又、役員の皆様を始め会員の皆様方のご指導、ご協力を頂きまして責務を全うして参りたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。



## 学部長就任挨拶

農学部長

夏秋 知英

同窓生の皆様にはますますご清栄のことと存じます。私こと、平成28年4月より杉田昭栄先生の後を受けて農学部長を務めさせていただいております。夏秋(なつあき)でございます。この度、同窓会報の紙面をお借りいたしまして、会員の皆様にご挨拶とともに農学部の近況を報告させていただきます。

現在の農学部は、平成25年4月より5学科体制(生物資源科学科、応用生命化学科、農業環境工学科、農業経済学科、森林科学科)に移行しました。学生募集定員は平成28年度新設の地域デザイン科学部への協力のため、20名減の195名となりました。

附属農場は平成22年度に全国の共同利用拠点の認定を受け、平成27年度にはさらに継続して5年間の認定を受け、他学部や他大学の食農教育に協力しています。演習林は、平成26年度に、個別の大学演習林としては全国初となる「緑の循環」認証会議(SGEC)の認証を取得し、ブランドとして宇都宮大学の認証材を供給できるようになりました。今後は、東京オリンピックの競技場建設にも木材を供給する予定です。

平成21年度に設立された附属里山科学センターは平成26年に雑草科学研究センターの半分と合体し、「雑草と里山の科学教育研究センター」となりました。雑草研の他の半分は、

バイオサイエンス教育研究センターと合体しました。

国際面では、アメリカ合衆国インディアナ州のPurdue大学農学部と部局間交流協定を平成26年に締結し、毎年、若手の教員や学生が留学しています。Purdue大学は世界大学ランキングの農学部編で第5位という卓越校で、この交流は農学部の発展につながると期待しています。

高大連携では、夏休みなどには高校生向けの講座を数多く開催しています。たとえば、栃木県の農業系高校とは毎年アグリカレッジを開講しています。さらに、埼玉県と群馬県の農業系高校とも協定を結び、高校教育と大学教育の流れをスムーズにする努力を重ねています。このような努力は、平成27年度から始まった科学人材育成プログラム(iP-U)という活動につながっています。

さらに、栃木県や企業と産官学連携を推進し、「とちぎフードイノベーション推進協議会」に参画し、平成26年度に栃木県が「地域イノベーション戦略推進地域」に指定されると同時に、地域イノベーション戦略プログラム「とちぎ特産物の多面的高度利用によるイノベーション～フードバレーとちぎを目指して」の採択により、特任教授や特任研究員を雇用してイチゴの研究を推進しています。

最後に、私は昭和55年(1980年)8月に宇都宮大学農学部農学科に助手として奉職して以来、36年間植物病理学研究室に勤務しております。以前はゆっくりと長期に研究し、学生と濃密な時間を過ごすことが出来ました。しかし、国立大学の法人化前後からは大学全体の予算削減、定員削減、大学改革の推進、地域貢献を柱とした新学部の設置と、まさに激動の時代を迎えております。このような状況の中で2022年に農学部は創立百周年を迎えます。同窓生の皆様方のさらなるご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 理事長就任挨拶



峰ヶ丘同窓生の皆様、如何お過ごしでしょうか。この度、常任理事会の理事長を務めるよう会長より指名を受けました、畜産S51年卒の杉田昭栄です。峰ヶ丘同窓会を船「峰ヶ丘丸」に例えれば常任理事会は「峰ヶ丘丸」の航海を推進する機関室のようなものかと思えます。「峰ヶ丘丸」の舵を取られる会長の下、機関室長として常任理事会をまとめて同窓会の運営に努めて行く所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。私は平成24～27年度まで農学部長を務めさせていただきました。その間、90周年記念行事、学生支援など学部運営には同窓会より多大なご支援いただき大変心強く感じました。この場をおかりしまして御礼を申し上げます。誠に有難うございました。また、学部長職を経験して学部と同窓会の関係についても幾つか勉強になることがありました。その経験を今後の同窓会運営に生かしていきたいと思えます。

さて母校の近況について簡単に触れさせていただきます。22年間続いた生物生産科学科は本年3月に最後の卒業生を社会に送り出しました。本年度の就職率は99%と高く教育現場の責務を果たせたものと考えております。それに代わって3年前にスタートした生物資源科学科および応用生命化学科は満4年を迎え1～4年生まで揃ったことになり

### 峰ヶ丘同窓会理事長 杉田 昭栄 (畜昭51卒)

ます。来年3月の新学科1期生の進路状況が楽しみなところ です。

一方、国立大学法人宇都宮大学は、第3期中期目標・中期計画に入りました。これまでの2期12年間の歩みを総括し、大きな機構改革とその成果を求められる正念場の時期でもあります。その旗印的取り組みとして一昨年から構想が描かれていた新学部が本年4月にスタート致しました。すなわち、宇都宮大学は教育学部、国際学部、工学部、農学部、地域デザイン科学部の5学部体制になり「地域の知の拠点」として一層の発展を目指すことと成りました。さらに、現在は、大学院の全学的見直しなど社会の変化に対応できる柔軟な高度専門教育体制整える議論も活発化してまいりました。

このような学内の変化の波を受けながら同窓会としては卒業生と母校、会員相互の絆をいかに繋いでいくかという道さがしが課題と考えています。思えば農学部設立100周年を迎える節目も間もなくやってきます。変化と継承という新たな課題も見えてきました。いずれにしても、伝統ある農学部および同窓会の増々の発展に努めて参りたいと考えています。皆様方にはより一層のご教示、ご協力をお願いしご挨拶とさせていただきます。

## 平成29年版会員名簿 発行のお知らせ

新しく「平成29年版会員名簿」が、平成29年12月に発行されます。**同封の会員登録データハガキは、訂正の有無にかかわらず、必ず返送をお願いいたします。**

なお、会員名簿ご購入ご希望の方は、このハガキにて、お申し込みくださいますようお願いいたします。

名簿発行日：平成29年12月上旬  
販売価格：会 員 3,700円  
非会 員 6,000円

※在校生・学内教員にはCD版を配布、名誉教授の先生には冊子体を無償贈呈いたします。





## 退職の挨拶



雑草と里山の科学教育研究センター  
小金澤正昭

平成3年9月に附属演習林の講師として着任し、以来22年間、演習林に勤務し、3年前に雑草と里山の科学教育研究センターに移り、足かけ25年の大学生生活でした。振り返ると、実に多くの方々にお世話になり、支えていただきました。こうして、無事、退職の日を迎えることができたことに、深く感謝申し上げます。

昭和40年代、日本の野生動物は、このままでは絶滅すると多くの研究者が危惧するほど、深刻な状況にありました。ところが、平成に入ると、シカやサル、イノシシといった動物たちがその数を増加させ、農林業被害が生じるようになってきました。さらに、平成10年に入ると、鳥獣による農林業被害は、全国的に広がり、深刻な社会問題となってきました。

そのような中、平成21年度に文部科学省の科学技術振興調整費事業の一つとして提案した、「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム」が採択され、5年間のプログラムとして、栃木県と大学が連携して取り組むこととなりました。この背景には、現場で被害問題と鳥獣保護に取り組んできた県職員や市町村職員、そして研究者の現状に対する率直な思いがありました。すなわち、鳥獣害対策を地元で指導助言する人材が圧倒的に不足していることと、鳥獣の生態や防除方法についての知識が全く蓄積されていない現状があり、この現状を変えないかぎり、鳥獣害を減少させることはできないという思いでした。このプログラムは、鳥獣管理を担う技術者を養成し、各現場へ配置するとともに、鳥獣害を防除する最新の知識と技術を普及させるための人的ネットワークを形成しようとするものでした。現在までに、この講座を修了した鳥獣管理士は116名になり、各地で活躍しています。今後も、鳥獣被害の軽減と野生鳥獣の保全に向けて、鳥獣管理士の養成を続けていきたいと願っています。



生物資源科学科 動物育種繁殖学  
吉澤 緑

私は、宇都宮大学農学部で学部4年間、大学院2年間、そして昭和52年4月に助手に採用後の39年間、計45年間の長きに渡りお世話になりました。大学院で村松隆先生から研究に対する姿勢、実験手技、結果の見方、考え方、論文の書き方に至るまで、懇切丁寧なご指導を賜り、研究の面白さに目覚めました。大学院修了時に、助手として残していただき、英語論文の執筆の一端から教示いただき、真っ赤になるまで原稿を直されたものでした。種々の実験を重ねながら一段階ごとに論文をまとめ、1報書く度に拙いながら英語論文らしきものとなっていきました。村松先生は学部長等の要職でご多忙ながらも、英語論文の校閲を楽しそうにしてくださいました。

畜産学科入学時30名のクラスで女性は私一人、4年生に一人女性の先輩がおられ、大学院進学も女性としては初めてで、母の大反対を説き伏せての進学でした。就職3年目の54年12月に林学科助手であった吉澤伸夫と結婚し、最大の理解者を得ることで研究にのめり込むことができました。

研究は、村松先生から教授されたマウス体内受精卵の染色体標本作製法を改良して新たな方法を開発し、さらに染色体の分染法を考案して学会発表等を行っていました。学会でマウス体外受精の世界的な権威の豊田裕先生のお話を伺うたびに、様々な実験の構想が膨らんでいったものでした。その後ウシやブタも含めた哺乳動物の体外受精を根付かせて、体外受精初期胚の染色体研究を行えるようになりました。村松先生や岡本昭先生のお蔭で平成元年から2年に東北大学の家畜繁殖学教室（正木淳二教授）へ内地留学し学位論文を纏め、平成2年1月18日に農学博士を授与されました。その後、参考文献で引用していたマウス体外受精の大家のLynn Fraserの下に3か月、大学から派遣され、彼女とファーストネームで呼び合う仲間になったことは大きな喜びでした。多くの先輩、先生方のご指導とご支援を受け様々な幸運に恵まれたことや卒業生との楽しかった日々を想い出しています。ありがとうございました。

## 今年度定年退職予定の教員

平成29年3月をもちまして、以下の教員が退職されます。平成29年3月までの連絡先は、以下の通りです。

- ・後藤 章先生 農業環境工学科 028 - 649 - 5497 goto@cc.utsunomiya-u.ac.jp
- ・上田 俊策先生 応用生命科学科 028 - 649 - 5475 uedashun@cc.ustunomiya-u.ac.jp
- ・米山 弘一先生 バイオサイエンス教育研究センター 028 - 649 - 5152 yoneyama@cc.utsunomiya-u.ac.jp



生物資源科学科 動物栄養制御学  
菅原 邦生

私は昭和48年3月に畜産学科を卒業し、その後2年間名古屋大学大学院修士課程をへて、50年4月に、助手として畜産学科（学科改組で、生物生産科学科から生物資源科学科）に赴任して、今年の3月まで41年間峰が丘の農学部棟で過ごしました。途中（平成4から5年）大阪大学の蛋白質研究所に10ヶ月内地研究員として出かけた時のをぞくと、40年間ほとんど変わらない環境で過ごしたことになります。今考えてみると、大過なくよくここまで来たものだと思います。教職員と学生諸子に励まされ、支えられたおかげであります。感謝いたします。

赴任当初は昭和50年を過ぎても学生運動が続いていたので、落ち着かない日々を過ごしていました。55年頃からは本格的に研究を始め、同窓会員の先生方には助けていただいたり、励ましていただいたりして、なんとか博士の学位をいただきました。

その後は学位論文の研究を発展させようと試行錯誤し、色んなことに手を出して十分な成果を上げることができませんでした。しかし、精神的な余裕ができたのか、学生諸君とソフトボールやキャンプ、構内でのカラオケ、BBQなどを楽しみました。また、先生方と昼休みのテニスにも励みました。

平成7年に教授になってから、学内の委員や所属学会の役員の仕事を引き受け、多忙な日々を過ごしました。後半の20年間は大学「改革」がいろんな形で実施され、赴任当時は考えられなかったような状況になりました。印象深いというか今でも納得いかないのは、専門科目以外の共通教育科目の英語2単位を学部教員に担当させたことです。これより前に、生物学関連の授業を担当したことはありませんでしたが、英語まで「教える？」ようになるのは驚きで、試行錯誤の連続でした。教養部を廃止し、大学の教育を4年一貫教育にした「改革」の産物でした。定年退職前の数年間はさらに「改革」が「強化」され、教職員の数は増えない状況で、新たな業務が導入され、余裕がない日々を過ごしました。

同窓会の仕事は本学の卒業教員として常務理事等を務めました。後半の二十年あまりは、同窓会に貢献したことはありません。逆に、平成26年にはインドネシアでの国際会議に参加する費用の一部を補助していただき感謝しています。

宇都宮大学農学部と峰が丘同窓会の発展を祈って、筆を擱きます。



追悼

若林先生を偲ぶ



去る6月7日、本学名誉教授で農学部附属農場長も務められました若林荘一先生が93歳で逝去されました。先生は1922年、東京都新宿区に生まれました。この年は偶然にも宇都宮高等農林が設立された年であり、本学で教鞭を執

られたのも何かの縁を感じます。東京帝国大学在学中に学徒出陣で中国戦線に出征、その後中国の病院で終戦を迎えられました。東北大学を経て、1950年から38年の長きに亘り本学で研究・教育にあたられました。

退官後は、囲碁や旅行、考古学研究、と実に多彩な趣味を嗜まれました。同時に、旧制高校時代に取り組みされた弓道の稽古を再開。週3回の稽古に励まれました。一昨年、御年92歳で参加された「ねんりんピック栃木」では、県内最高齢選手として大きな話題となりました。

俳句は毎年多く詠まれていたようで、90歳の時に編纂された22冊目の句集「真正九十翁」を頂きました。その際には「これは『くそじい』と読むんだよ」と阿々と笑っておられましたが、いずれも飾り気のない、深い句ばかりでした。先生の人柄をよく表しているものをいくつか紹介致します。

- ・山笑う横書き句集我一人
- ・青柳や父と巡りし中国路
- ・年用意妻のつくりし観音像（記念の仏像が出て来た）
- ・年用意息子夫婦に丸おんぶ（おかげでよい正月でした）
- ・大過なき九十年や蚯蚓鳴く
- ・天命のまま存えむ水中花
- ・吾亦紅松虫草を引き立てて

また、こうした趣味に加えて、様々なボランティア活動にも積極的に参加されました。とりわけグリーントラスト運動に熱心に取り組み、先生のご遺志により葬儀の香典は全てグリーントラストに寄付されました。

本年3月の卒業式の日、名誉教授の会にご参加いただきました折には、闘病中にも拘わらず、ご挨拶をいただきました。お帰りの際に大変強く握手していただいたのを憶えております。先生のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、先生には今後も同じ年の宇都宮大学を見守っていただきたいと願うばかりです。

（生物資源科学科 園芸学研究室 山根 健治）





# 新任教員あいさつ



## 栗原 望

所属・職種：農学部 生物資源科学科  
講師  
専門：分類学、形態学（動物）

2016年5月に生物資源科学科動物機能形態学研究室の講師として着任しました。出身地である名古屋には、60haもの広さを誇る東山動植物園があることから、私は様々な動物を見て育ちました。一方で、金魚や熱帯魚の飼育を通し、水生生物に魅了された私は、長崎大学水産学部に入學、念願の水生生物の勉強を始めました。研究対象が鯨類であったことから、卒業後は哺乳類の勉強をしようと、名古屋大学大学院環境学研究科、続いて生命農学研究科に進学し、学位を取得しました。その後、国立科学博物館、山口大学を経て、宇都宮大学に勤務することとなりました。

私は、分類学、形態学、分子生物学、核学といろいろな分野に触れてきましたが、最も好きな分野は形態学です。生物は、環境に合わせて形を変え、巧みに生きています。「かたち」を見ることで、その生物の持つ能力や進化の過程が見えてきます。生物の「かたち」を観察する形態学は、生物学の中で最も単純な学問かもしれませんが、しかし、まだまだ可能性のある学問です。陸・海・空、さらに地中までも制覇した唯一の脊椎動物、哺乳類の多様性とその進化史を形態の面から解き明かしたいと思っています。

また、宇都宮大学を初めて訪れたときに感じたことは、心地よさでした。整備された美しい庭園をもつ大学は、国内でも珍しいのではないのでしょうか。動物を解剖していると、ハッとするような美しい構造に出会います。美しい庭園を持つ大学で、動物の体をもつ美しさに感動しながら、学生とともに学んでいきたいと思えます。



## 大西 孝幸

所属・職種：地域連携教育研究センター  
特任准教授  
専門：育種学、遺伝学（植物）

2016年3月に地域連携教育研究センターの特任准教授として着任いたしました大西と申します。私は東京都杉並区の出身で、私立駒場東邦中・高等学校に通い、卒業後に東京大学理科二類に入学し、農学部 応用生物学専修に進み、東京大学大学院 農学生命科学研究科 生産・環境生物学専攻にて博士（農学）の学位を取得しました。その後、奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）や横浜市立大学 木原生物学研究所において、7年間の博士研究員として研究に従事してきました。この度宇都宮大学に勤務することとなりましたので、皆様にご挨拶申し上げます。

私の専門分野は育種学および遺伝学で、主にイネを用い

た研究を行ってきました。イネを含む植物は、核ゲノムだけではなくミトコンドリアや葉緑体といった細胞内小器官がもつ遺伝情報（オルガネラゲノム）も備えています。私は、さらなる作物の品種改良（育種）を目指して、核ゲノムだけではなく、オルガネラゲノムも加味した革新的な育種技術の開発を目指しています。今後は、イネやアブラナ科植物を材料に、オルガネラゲノムの多様性に着目し、核ゲノムとオルガネラゲノムの相互作用について分子レベルで検証します。

最後になりましたが、宇都宮大学および地域の持続的な発展に貢献できますように精一杯努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



## 園田 昌司

所属・職種：生物資源科学科  
応用昆虫学研究室  
准教授  
専門：応用昆虫学

2015年11月に生物資源科学科応用昆虫学研究室に准教授として着任いたしました園田昌司（そのだしょうじ）と申します。福岡県北九州市に生まれ、岡山大学農学部に入學しました。岡山大学では修士課程、博士課程を含めて9年間在籍し学位を授与されました。その後、茨城県つくば市の農業生物資源研究所で4年半、米国ミズーリ大学で半年過ごしました。2000年4月より岡山大学資源植物科学研究所に勤務しておりましたが、この度ご縁あって宇都宮大学農学部勤務することとなりましたので、ご挨拶申し上げます。

私の専門は応用昆虫学で、害虫管理に関する研究を進めています。現在、農作物の害虫管理は主に殺虫剤などの薬剤を用いた化学的防除によって行われています。しかし、農業生産の現場では薬剤抵抗性が大きな問題になっています。私は、天敵をはじめとする生物的防除手段の利用拡大によって、相対的に薬剤への依存度を低下させ、抵抗性害虫の出現を回避するための技術開発を行っています。学生さんとは、実験室内だけでなく、生産現場に出かけて害虫管理の抱えている問題とその解決策を考えていきたいと考えています。

90有余年の歴史をもつ宇都宮大学農学部では、古き伝統を大事にしつつも実践性を重んじる学風が息づいているように思います。私にとって学部の学生さんの教育は初めての経験で、大いに刺激を受けながら毎日を過ごしています。最後になりましたが、宇都宮大学と地域社会の発展に少しでも貢献できるように努力精進して参りたいと思っております。皆様には今後ともご指導ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

## 支部総会（8支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思っております。お問い合わせは、P 22 の支部長一覧をご参照下さい。

AKITA

### 秋田支部総会

秋田県支部総会は、平成 27 年 11 月 21 日、秋田市の「ルポールみずほ」において、本部より房相佑（ばんさんうー）教授を迎えて盛大に開催されました。

当日は県内各地から 23 名の出席をいただき、石川次男支部長（S 34 総農卒）の挨拶に始まり、前年度の決算報告が承認され、引き続き支部役員の変更（任期 2 年）が行われ、石川支部長が再選されました。

総会終了後、房教授から峰キャンパスと周辺の近況報告があり、在学中の美しさが今も健在な仏庭、改修で蘇った講堂、変わりゆくキャンパス周辺の町並みが紹介され、会員一同懐かしい峰ヶ丘に想いを馳せたひとときでした。

懇親会では、お互いの健康を喜び合い、宇都宮大学歌、高等農林学校校歌の大合唱で盛り上がり、来年度の再会を誓い合って散会しました。

ご協力いただきました房教授、同窓会本部事務局にお礼申し上げます。

28 年の総会は 11 月 12 日(土)に「郡山ビューホテル」で開催予定ですので、県内在住の同窓生の多くの皆さんの出席をお願いします。（事務局長 農経 S 46 卒 後藤達夫）



ISHI  
KAWA

### 石川支部総会

平成 27 年 7 月 4 日(土)、金沢駅前の金沢都ホテルにおいて会員 10 名の参加により石川の会定例会を開催しました。

榎木幹事長（昭和 43 年卒）の挨拶に続き、前年度の会計報告を行い、承認されました。引き続き、川畑会長（昭和 40 年卒）の乾杯の発声で懇親会を開催しました。各自の趣味や健康など近況報告に花が咲き、話はいつしか北陸新幹線開業が話題となり、随分と宇都宮も近くなることに一同感心することしきりでした。吉田副会長（昭和 40 年卒）の一本締めで中締めを行い、来年の参加人数増と再会を約束しお開きとなりました。

幹事 八尾 充睦（昭和 63 年卒）



HUKU  
SHIMA

### 福島県支部総会

平成 27 年 11 月 28 日(土)に福島市の「フロンティア」で 50 名が出席して福島支部の総会を開催しました。総会では、星恒徳支部長（総農 S 40 卒）が「昭和 18 年卒から平成 27 年卒まで幅広い年代の会員が出席して開催することができた。この会を契機に絆を一層深めて欲しい」と挨拶しました。また、来賓として本部から出席された理事の田村孝浩準教授（農開 H 8 卒）からは、28 年 4 月に「地域デザイン科学部」が新設されることや学内各施設の整備状況など大学の近況を紹介していただきました。

記念写真の撮影、6 名の物故者への黙祷が行われた後の懇親会は、黒沢清さん（農工 S 34 卒）の乾杯の音頭で始まり、大いに酒を酌み交わしながら、峰ヶ丘時代の思い出や互いの近況などの話題に花を咲かせ楽しいひと時を過ごしました。

恒例の「大学歌」高唱では「吾こそが若者なりと思う者は壇上へ」と呼びかけたところ、なんと須田俊雄さん（林 S 60 卒）を始め 18 名が登壇。彼らを中心に往事を懐かしみながら 4 番まで声高らかに唱い、室井潤さん（農環 H 9 卒）の中締めで盛会のうちにお開きとなりました。

SAI  
TAMA

### 埼玉支部総会

去る平成 28 年 1 月 30 日(土)、さいたま市内の別所沼会館において、第 17 回峰ヶ丘同窓会埼玉支部総会を開催しました。

当日は、本部から竹永先生を来賓としてお迎えし、総勢 51 名の出席を得ての開催となりました。

総会は、沢口憲司支部長（農業開発工学科 S 47 年卒）



の開会挨拶ののち議事に移り、提出議案全てを原案通り可決するとともに、新支部長として、田村真実氏（農学科S 57年卒）を選任しました。

総会に続く懇親会では、出席者中最年長である上遠野次男氏（農学科S 25年卒）の乾杯の発声で開宴し、大いに酒を酌み交わしながら峰ヶ丘時代の思い出やお互いの近況などの話題に花を咲かせました。

また、竹永先生から、後輩たちの活躍の様子や日々変わりつつある大学内の様子などについて、スライドを使いながらご説明いただき、時の流れを感じたひと時でした。

最後に、宇都宮高等農林学校校歌と宇都宮大学歌を大合唱し、2年後の再会を約して盛会のうちに閉会しました。

幹事 木村 真司（農業開発工学科H 2年卒）



第17回 峰ヶ丘同窓会埼玉支部総会 平成28年1月30日(土)

## IBARAKI

### 茨城支部総会

平成28年7月16日(土)に水戸市の「ホテルレイクビュー水戸」において会員45名が出席して茨城支部総会を開催しました。

菊池正蔵支部長（農学科昭和46年卒）の挨拶に続き、来賓としてお越しいただきました「雑草と里山の科学教育研究センター長」で農学部教授の小笠原勝先生（農学科昭和54年卒）から、大学の近況報告と御祝辞をいただきました。

総会では、前年度の決算を報告し、承認されました。

記念写真を撮影した後、出席した会員の中で最年長の昆野昭農先輩（農学科昭和22年卒）の乾杯の音頭で懇親会が始まり、大学時代の思い出やお互いの近況の話で大いに盛り上がり、懇親を深めるなど楽しいひとときを持つことが出来ました。

今回の開催にあたり、同窓会本部の皆様には大変お世話になりました。今後も、ご指導のほど、よろしく願いたします。

大内 正光（農業開発工学科平成3年卒）



## GUNMA

### 群馬県支部総会

群馬県支部総会は、平成27年11月20日(金)、前橋市内において、本部より大栗行昭理事（S 58年農業経済学科院卒）を迎え、盛大に開催されました。

当日は、県内各地から会員61名の出席をいただき、嶋方徳郎副支部長（S 43年総合農学科卒）の開会、二見秀隆支部長（S 44年林学科卒）の挨拶に引き続き、来賓の大栗理事からはスライドによる大学の近況報告と御祝辞をいただきました。また、役員の変更があり、二見支部長と嶋方副支部長は再任され、萩原俊作副支部長（S 45年農業開発工学科卒）に替わり、大嶋稲良（S 51年農業開発工学科卒）さんが新たに副支部長に選任されました。

次いで、出席した中で最年長の中嶋明大先輩（S 33年農学科卒）による乾杯の発声で懇親会が始まり、大学時代の思い出話などに花を咲かせました。

途中、大沢百合奈さん（H27年農業環境工学科卒）をはじめ初参加者5名のフレッシュな自己紹介や、校歌・コチャ工節の大合唱で盛り上がり、最後に大嶋新副支部長の締めにより、来年の再会を約束し、お開きとなりました。

今年も11月に開催予定ですので、群馬県在住の同窓生の皆さん、御参加をお待ちしています。

片山 茂（S 57年農業開発工学科卒）



## YAMA GATA

### 山形支部総会

平成28年7月9日(土)、峰ヶ丘同窓会山形支部総会が会員27名の参加により、かみのやま温泉「三木屋」で開催されました。

総会に先立ち、来賓としてお越しいただいた農学部生物資源学科の房先生に御講演を賜りました。講演はアブラナ科育種研究70年の蓄積に関する内容で、みな熱心に耳を傾け多くの質問が飛び交いました。学生時代と変わらず向学心は衰えません。先生には、地域デザイン科学部の新設をはじめ、大学運営の移り変わりなども紹介していただきました。

総会の終了後に行われた懇親会では、久しぶりに集う仲間同士、先輩・後輩の枠を超え近況報告や、学生時代の思い出話で大いに盛り上がりました。お酒が進み、会が盛り上がるにつれ「高等農学校歌」、「宇都宮大学歌ー峰ヶ丘ー」、「宇都宮大学コチャ工節」の大合唱が響き渡り、盛会のうちに終了することが出来ました。

山形支部総会は隔年で、「三木屋」での開催が恒例となっています。本部より来賓として出席いただいた教授の御講

演でタイムスリップし、なんだか少し若返れたような気がします。次回の開催では、さらに多くの会員の方に参加していただきますよう期待しています。

(農業環境工学科 平成7年卒 下山 智弘)



YAMA  
NASHI

### 山梨支部総会 (H27)

「峰ヶ丘同窓会山梨県支部」の平成27年度総会が7月30日、午後6時から、甲府市内の料亭「割烹司」において、会員28名の出席をもって、盛大に開催されました。

総会は、山梨県森林環境部富士・東部林務環境事務所長の 大芝秀明氏(新林学27回卒)の開会挨拶に始まり、会長の山田公夫氏(旧林23回卒)のあいさつ、続いて、事務局からの26年度事業報告や27年度事業計画等の報告を行い、満場一致で承認されました。続いて、副会長である武川仁(旧林25回卒)の乾杯により祝宴に移りました。

さて、全国的な課題にもなりますが、本県の農林業は担い手の減少・高齢化、それに伴う耕作放棄地の拡大や森林所有者の経営意欲の低迷など、大きな構造的な変化に直面しています。祝宴では、このような課題の打開策の相談や日頃の悩み、心配事などに対して、同窓会の会長をはじめとする先輩の方々からの温かいアドバイスや活躍を期待する声、会場のあちらこちらから聞こえてきました。特に今回の総会には、卒業間もない会員が多数参加しており、先輩達の声に大変感慨深い表情を見せていました。

祝宴も例年以上に盛大に進行する中でありましたが、参加者全員で来年の再会を約束して、同窓会を終了しました。

幹事 田邊幹雄(新林学31回卒)



YAMA  
NASHI

### 山梨支部総会 (H28)

「峰ヶ丘同窓会山梨県支部」の平成28年度総会が7月21日、午後6時から、甲府市内のホテル「談露館」にお

いて、会員25名の出席をもって、盛大に開催されました。

総会は、山梨県森林環境部峡南林務環境事務所長の 田邊幹雄氏(新林学31回卒)の開会挨拶に始まり、会長の山田公夫氏(旧林23回卒)のあいさつ、続いて、事務局からの27年度事業報告や28年度事業計画等の報告を行い、満場一致で承認されました。

この総会で、来年度に山田会長が勇退され、平成29年度からの新しい会長には、武川仁副会長(旧林25回卒)が就任することとなりました。山田会長には、最高顧問として、引き続き、山梨県の同窓会の発展にご尽力をいただくこととなりました。続いて、副会長である武川仁の乾杯により祝宴に移りました。

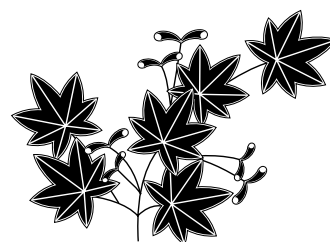
さて、山梨県の課題は、全国と共通するものであります。「産業経済の活性化」「少子高齢化・過疎化」「防災対策」「高速交通網整備」らが挙げられますが、これらの課題に対しては、企業誘致、観光振興のほか、我々同窓会と深い関わりを持つ農林業振興などの分野でもその重要性が増しております。しかし、本県の農林業は担い手の減少・高齢化、それに伴う耕作放棄地の拡大や森林所有者の経営意欲の低迷など、大きな構造的な変化に直面しています。

一方では、2018年に予定されている中部横断自動車道の増穂から静岡区間の開通や2027年に東京～名古屋間の開通を目標としているリニア中央新幹線工事が開始されております。また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、山梨を取り巻く社会・経済情勢に大きな変化、発展へのプラスの芽があります。

祝宴では、こうした山梨の将来に向けての展望や政策課題の打開策の相談、また、日頃の悩み、心配事などに対して、同窓会の会長をはじめとする先輩の方々からの温かいアドバイスや活躍を期待する声、会場のあちらこちらから聞こえてきました。

来年度からは、武川仁氏を新会長に迎えることとなりますが、新会長を先頭に同窓生が結束し、同窓会と会員の発展を誓い、盛大の内に同窓会を終了しました。

幹事 田邊幹雄(新林学31回卒)





## クラス会 (14 クラス会)

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。

### 1 異郷で篤き友情のつどい クラス会 林学科 S40 年卒クラス会

林学科 13 回生 (S40 卒) は、毎年道府県持ち回りでクラス会を開催しているが、本年は現在ベトナムに在住する小沢君の手を煩わせて同地で開催することになった。

3月13日、夫人同伴の1カプルを含む6名が羽田に集結して、7泊8日の海外クラス会がスタートした。小沢君はホーチミン在住のため同市周辺を訪ねる日程が組み、まずベトナム戦争当時解放戦線の拠点であったクチの戦場跡へ。地下に掘りめぐらされた250kmにも及ぶトンネルや巧妙な落とし穴などに紛れもない戦地の臨場感が漂い、駐車場や土産品店などが整備されて欧米からの観光客も多く、まるでテーマパークのようだった。

戦争証跡博物館では、枯れ葉剤散布後の立ち枯れて荒涼とした戦場や肢体の不自由な子供たちの写真などに戦争の悲惨さとむごたらしさを思い知らされ、その後訪れた孤児院では今なお枯れ葉剤の影響が残る母体から生まれた幼児たちの異様な姿に言葉を失った。被爆敗戦国からこの国に来て、戦争という行為の空しさや平和の尊さを改めて悟られた3箇所の見学であった。

一方、南シナ海に面した小さなリゾート地ムイネーで2泊した。そこでは今もタライ舟漁が行われており、早朝浜辺に帰るや、その場で鮮魚が即売される光景が珍しかった。買い求めた魚介で夜はシーサイドパーティ。半世紀を遡って船生演習林の合宿の再現は、飲み食べ唄って盛り上がり、束の間だが気分が若返った。そのほか南国の果物や珍しい料理に舌鼓を打ち、砂漠や溪流を歩くなどの体験もした。垣間見たベトナムは、各地でビルや地下鉄工事が進み、街中はモーターバイクが溢れ返って、発展途上国の活力を見せ付けられた思いだ。

異郷での1週間は、変わらぬ篤い友情と堅い絆を互いに確認しあって、心に残る1ページとなった。企画から設営、案内とすべて取り仕切ってくれた小沢夫妻に感謝。今回は海外開催のため諸般の事情から参加を見合わせた仲間が多かったが、在住道府県一巡となる来年の茨城開催では、多くの参加を望みたい。

(河口記)

参加者：小沢征夫夫妻、河口浚、田中康一、辻利正、野田正宣、能登洋治夫妻



### 2 農学科昭和47年卒クラス会 クラス会

2015年9月27日、農学科47年卒クラス会が伊豆河津温泉郷 ファミリー&リゾート川ばたで開催されました。直前に起こった関東・東北豪雨で被災した者も駆けつけ、6組の夫婦を含む17名の参加を得、盛大な会になりました。源泉かけ流しの宿は貸し切り状態で美味しい料理と相まって、皆大満足でした。ほぼ全員が第一線を引退しまだ元気ではあるものの、寄る年波には勝てず共通の病気や老後の生活を話題に大いに盛り上がりました。皆抱える悩みは同じということに安堵しました。翌日は地元の名勝河津七滝(ななだる)に行き、次回の群馬での再開を約して解散しました。

上野正樹



### 3 被災地「相馬」に集う クラス会 農学科昭和42年卒クラス会

平成27年10月17日午後3時、相馬中村城趾に集合し、相馬野馬追い総大将が出陣する城趾内を散策。その後、海岸に移動し、集落が消えた海岸に震災の記録を伝える「伝承鎮魂記念館」さらに松川浦湾口に200人ほどの太公望が並ぶ秋サケ釣りを見て、岩子「清風荘」にて11名でのクラス会となりました。

和風旅館での椅子テーブルは我々の年代を考慮した備えと感心するとともに、本来なら地元の魚づくしの料理も試験操業の魚種と三陸産でしたが十分に堪能できました。

翌朝5時、有志3人は秋サケ釣りへ、釣果は両隣が釣ったのを見たそうですが、豪快な気分だけは味わったようです。

散会后、栃木の3人は近くの太平洋を望む鹿狼山(430m)で1時間半のハイクを楽しみました。

最近の当クラス会は26年6月播州相生市(10名)、24年10月鬼怒川(20名)とミニクラス会の様相になってきております。

次回は70歳到達を祝い、宇都宮で開催を約束し散会しました。

常磐道は開通したものの、アクセスが不自由な地での開催でしたが天候に恵まれ、被災の復興状況なども見ていただき幹事としては及第点です。

これからも福島の商品のご愛顧と福島へお出かけをお願いすると共にさらなる福島への応援をよろしくお願い致します。(幹事 只野)

前列：湯本 松本 宇井 鈴木  
後列：猪瀬 橋本 藤平 合田 只野 小林



#### 4 農学科第4回生(昭31年卒) 卒業還暦記念・結びの同級会

平成28年5月19～20日、宇都宮市内ホテルニューイタヤで標記の同級会を開催した。高齢者同士の気力・体力・健康面を考慮し、集合しやすい母校所在地で結びの会とする。前年の栃木県内在住者の準備会での決定による。

学友38名中、物故者は14名で、2年前の塩原での同級会後、畏友3名を失った。存命24名だが参加者は8名だった。県外から本多重夫(岡山)、小林祐造(須坂)の2名。県内は杉田勇治、田村嘉應、津久井恭夫、名塚史雄、幹事役の富田頼夫、尾田治徳の6名。全員が再会を喜び合った。

会運営は一人一役で、分担して進化した。懇親会の冒頭で故畏友のご冥福を祈り、その後は近況報告と多様な話題で賑わった。続く雑話会では幹事が用意した卒業アルバムからの学友38名の肖像コピーと実施一覧、『峰ヶ丘会報』所載記事を資料に、学友・恩師の思い出、エピソードなど、時空を遡って回想にひたった。散会時には、自愛して新しい生きがいを見つけようと誓った。

引継ぎの詳細記録が残る隔年毎の同級会は、すべて夫人同伴であった。平成4年の福島・穴原に始まり、定山溪、鹿教湯(卒業40周年)、塩原、秋保、伊香保、那須、軽井沢(同50周年)、千葉・白子、鬼怒川、会津、東山、塩原、今回の宇都宮(同60周年)での結びの会まで連続13回。4半世紀にわたる、忘れ得ぬ和やかで有意義な集いだった。



写真左から  
(前列) 小林・津久井・本多・杉田  
(後列) 尾田・田村・富田・名塚

記念すべき結びの会には、残念だが夫人同伴はなかった。しかし、毎回参会いただいた田村令夫人は、心がこもった自家製「柚子マーマレード」瓶詰を、参会者全員のために用意くださった。ありがたい気配りに深謝申しあげる。

永年にわたる隔年毎の夫人同伴同級会開催は、歴代幹事・学友間の強い絆と熱意による。なお、令夫人方のご理解と配慮に敬意と感謝の極みである。謹んで故畏友を偲び、ご冥福を祈る。農学科第4回学友諸氏と令夫人、峰ヶ丘同窓会の弥栄を記念して、同級会結びの報告にする。

文責 尾田治徳 —2016・5・28—

#### 5 農経13回(昭和40年卒) 同窓会開催

クラス会

前回3年前の長野県での開催について、今回は北陸新幹線が開通した富山県で平成27年9月29日から10月1日の3日間19名が参加し開催した。

富山県庁の要職を務め、県内を熟知した地元の上江君が幹事の企画、立案での実施のため、全てに行き届き参加者全員、大いに満足したところです。

初日は「とやま自遊館」での宿泊、宴会場で、近況報告や旧交を温め、校歌などで盛り上がり、二次会に流れ、時の経つのを忘れ飲み、かつ談論に夜が更けた。

2日目は天気も良く、バスでの栃波散居村を展望する「夢の平」に、実はここから今回幹事の上江君の家が見えるということで、一同感心しきりでした。

その後、五箇山合掌の里で「こきりこ」の踊りを鑑賞しながらの昼食、泊りは九殿浜の温泉、この日の宴会は昨日の疲れもあったが、飲む程に、富士の山海の料理を堪能しつつ、盛り上がった。まだまだ皆元気な様子であった。

次回は、北海道への新幹線も開通する2年後に大江戸君達北海道在住者が幹事となり開催することを決定し、お互いに健康に留意し再会出来ることを楽しみに帰路についた。(花塚 功先 記)



#### 6 農業経済学科第16回(昭和43年3月卒業) 同級会

クラス会

平成27年10月15日～17日の3日間、岐阜市・白川郷・高山市を会場に、19名の参加を得て、同窓会を開催した。

今回の幹事は、岐阜市在住の星野君。一人で切り盛りし大変だったと思いますが、気配り・目配りのきいた心温まる同級会となった。星野君、幹事役、ご苦勞様でした。そして有難うございました。



初日、岐阜市長良川河畔での篝火の下で、鵜飼い漁をみながらの夕食会。今年の鵜飼いはこの日が最終日のため、締めくくりの打ち上げ花火まで、既に亡い3人の同級生を偲びながら、飲み・食べそして喋る懇親会となった。その後、ホテルに戻り二次会が延々と続いた。

2日目は、金華山城を見て、貸切バスで白川・白山スーパー林道の真っ盛りの紅葉を愛で、白川郷の奇祭〈どぶろく祭り〉に参加した。どぶろくに酔いしれさらに高山の宿での楽しい大宴会と続いていった。

翌朝、2年後の再会を約束し、名残を惜しみながら散会した。次回は2017年、川俣君・猪狩君が幹事となり、宮城県で行うことに決定しました。お二方よろしくお祈りします。皆さん是非参加してください。

楽しいですよ！ (田村 宏志 記)

今回の出席者 = 19名 (敬称略)

五十嵐・猪狩・板橋・上野・岡田 邦之・川俣・桐生・小平・佐藤 史彦・田村・中島・中田・中村・星野=幹事 堀越・松澤・山本・渡辺 武夫・渡辺 公彦 (うち五十嵐と小平は夫婦参加)



## 7 畜産学科第17回生 [昭和44年 (1969年) 3月卒] 同級会報告

私ども昭和44年畜産学科卒は入学時29名、4年次に1年先輩の佐藤氏が海外研修から帰国し卒業時は30名であった。卒業後、平成27年まで、不定期に同級会を開催してきた。ここ3年間は鹿児島、札幌、清里とそれぞれの地域在住者が幹事となり郷土料理に舌鼓をうちながら旧交を温めてきた。

今回幹事代表となった多田君が一昨年より国際学部にて聴講生として宇大に週1回通いだし、修復なった旧講堂で飲食を行う会合開催が可能との情報を仕入れてきて同級会を旧講堂で開催すべく準備を始めた。という経緯で平成27年(2015)年10月に入学後50周年をも記念し、同級会を同窓会事務局の協力を得、当時の一般教養科目の憲法、経済等を受講した旧講堂で開催した。

当日の出席者は9名であった。会場には「島村・家畜生理学」など私たちの勉学を助けてくれた図書類、卒業写真集、畜産学科機関紙、「まきば」のバックナンバー、成績証、学生証、人工授精師受講証明書などが展示され、開会前にそれぞれに懐かしく手に取り眺めた。

同級生の物故者は4名、さらに迷惑を掛けた先生方も長

嶋先生を除き全て鬼箱に入っており、開会に先立ち、恩師、同級生物故者に追悼の黙とうを捧げた。その後、多忙な中を出席していただいた杉田学部長より大学の現状、方向性等についての説明を兼ねた挨拶を頂き、若干の質疑応答の後、杉田学部長を囲み記念写真を撮った。杉田学部長退席後、懇親に移り生協より取り寄せた料理、宇大産焼酎などを嗜みながら学生時代の思い出を肴に懇親、各自の現況報告をしてお開きとした。

同級会終了後、有志で旧畜産学科の研究者巡りをし、現役学生の勤勉さと私どもの研究室生活に隔世の感を抱き、さらに当時の卒論が保管されていることに驚きつつ散会した。

最後に、今回お世話・協力・ご配慮していただいた杉田学部長ならびに同窓会事務局の多田さんにお礼申し上げます。(文責 四十万谷)



前列左から：多田、加茂、松永、杉田学部長、宇田、田中、細田

後列左から：四十万谷、市村、渡辺浩治

## 8 農芸化学科16回生 (昭和43年3月卒) クラス会報告

クラス会

平成27年11月18・19・20日

年々盛り上がる傾向の我がクラス会は北海道・台湾と二年連続で遠方が続きましたので今回は東京開催となりました。実は恩師藤沢徹名誉教授がめでたく卒寿を御迎えになられましたので我がクラスでもお祝いするという大義名分がありました。

第一日目は、東京会場で新宿中村屋のレストラン「グランナ」で和やかな祝賀会ムードの大宴会を行いました。田中秀幸・渡嘉敷義浩・加藤好武の各名誉教授から恩師への祝辞があり、さらに次回白寿の会での再会を約束しました。第二日目は、横浜会場で横浜中華街の本場中国料理を囲み旧交を温め合いました。この夜はマッカーサー元帥の



愛したホテルニューグランドに宿泊し、青春時代にタイムスリップして深夜までの酒宴を敢行いたしました。

出席者は主賓の恩師藤沢徹先生をはじめ、伊東哲夫、榎本晃一、加藤好武、北村忠夫、木村哲夫、河野郷、柴田武志、清水修、染谷省三、高梨俊治、田中秀幸、渡嘉敷義浩、箱山清夫、樋浦康一郎、橋本俊一、大滝薫の17名と同伴令夫人6名を加えて23名でした。幹事は総務担当の柴田武志、東京会場担当の染谷省三、横浜会場担当の榎本晃一、副幹事長の樋浦康一郎、幹事長の大滝薫と役割分担して臨みました。次年度は土佐の高知を会場として幹事役二回目の高梨俊治氏にお骨折り戴き、開催する予定です。（大滝記）

## 9 農芸化学科 19 回生クラス会報告 クラス会

農芸化学科 19 回生クラス会を 2015 年 11 月 6～7 日に行った＝幹事は関口氏 & 桑川氏＝。今回は宇大校内の見学がメインテーマ。准教授金野先生に宇大の現状を講義して戴き学内をそぞろ歩きした。

講堂、フランス式庭園、旧農芸化学館、生化学研究室（旧 3 講座）等をじっくり見学。真剣な眼差しは科学者そのもので全員が懐かしがっていた。現役の時より真面目になった熟年学生も数名おり大変有意義だった。

その後、益子へ移動し懇親会を行う。

冒頭に 8 月他界した井上氏等に黙祷を捧げ、懇親会が始まる。個人個人の近況報告をメインに大盛り上がりだった。特筆すべきは 1 講座斎藤光氏のエッセイ出版の話。16 年 1 月発売の本について詳しく説明があり、全員ビックリポンだった。タイトルは「青春している MR」（著者：斎藤光星）。小話 37 編からなるエッセイ集で文芸社から出版。我がクラスの直木賞（？）とも言える作品。彼の話では現在小説を執筆中で 2 年後に出版とのことで期待度は 2 万%だ。いよいよ農化科から直木賞作家が誕生か……。

皆さんも是非お読み下さるようお願いする次第です。熟年に勇気や活力を与えてくれる作品で、実に良く書けているエッセイ集です。

柴田氏のトランペット演奏（3 曲）もあり、大いに彩りを添えた。

二次会の Free Talking は果てしなく続き、大いに旧交を温めることが出来た。

翌日は陶芸美術館、工房見学後お開きとなった。

例年の如く写真を撮りまくり、アルバムを編集してくれた中島氏には感謝申し上げる次第です。カメラマンお疲れ様でございました。



今年は池田氏幹事で茨城開催です。全員参加で楽しみましょう。

参加者：阿部・飯塚・池田・小川・小田部・桑川・児玉・斎藤・柴田昌男・柴田公子（＝川上）・渋谷・関口・高崎・中島・福島・三好・山路・山田

誠に残念ですが奈良唯夫氏（豊川）が 5 月中旬御逝去なされました。

## 10 旭日重光章受賞を祝い 畜 11 回（昭和 38 年卒） クラス会

吉田公一君は、農林水産副大臣等を歴任し平成 25 年国会議員を引退、平成 28 年春の叙勲で旭日重光章を受賞された。これを機に宇都宮市ホテルニューイタヤにおいて祝賀会（同級生の）を催した所、県外から岩下君（茨城）渋川君（姫路）片寄君（小田原）本田君（福島）浦辺君（東京）がかけつけ本県の高山、野口、鈴木、渡辺の 4 名と受賞者の田君をまじえ 10 名が親しく受賞を喜び合った。

これまでも吉田君の当選祝い、就任祝い、国会見学や及ばずながらの選挙運動などと、わいわい同級生も身近に政治を感じたものでした。

今回都合で出席できなかった、三浦君、岡本君、星君、飯田君、板橋君、荻津君、有賀君、横塚君、体調不良で出席できなかった松沼君、沼尾君、小池君、入院中の川侯君等も次回は顔を見られることを願って、浦辺君に東京での開催をお願いし散会した。



## 11 畜産学科第 4 回（昭和 31 年 3 月）卒業 「畜四会」東京浅草に集う クラス会

昨年鬼怒川温泉でのクラス会開催時に、来年もやろうかという話になり、「千葉君に音頭を取って」と、話が弾みました。

年が明けると直ぐに、「約束をしたから東京でクラス会をやろう。はとバスを利用した、靖国神社参拝と東京スカイツリーのコースでどうか」と、連絡があり、宿やバスの手配をしてくれました。

平成 28 年 5 月 24 日午後 1 時、東京駅南口集合。はとバスは定刻に出発し、日比谷通り～法務省赤レンガ棟～国会議事堂前を通過し、靖国神社を参拝。神田古書店街～神田須田町を抜けて東京スカイツリーへ。

東京スカイツリーの展望回廊からの眺望は素晴らしく、薄曇りの天候でしたが、東は江戸川、西は新宿副都心の高



層ビル、南は東京ゲートブリッジ、北は北千住あたりまで眺めることが出来ました。ガラス床からの眼下の家並みや道路を走る車等々、まさにジオラマの世界でした。

宴会は佐藤君の乾杯で始まり、「助六の宿・貞千代」の宿主望月友彦氏の歓迎の挨拶と、江戸小咄やなぞかけ遊びの語らいに抱腹絶倒・悶絶。

宴席では姿川寮や自律寮、今だから言える家賃を払えず下宿からの夜逃げの話や、淡い恋心の話もあって、思い出話は尽きず、夜の更けるのを忘れました。

5月25日は、浅草寺～浅草神社（三社様）～仲見世通り散策～巢鴨刺抜き地藏～都電荒川線（チンチン電車）に乗って～雑司が谷鬼子母神堂と年齢相応の寺社巡りで、池袋駅へ出て流れ解散。

2日間で2万5千歩のウォーキングでした。次回もまた元気で逢おうと、再会を約しました。

写真は、前列向かって右より、佐藤邦郎君、高橋祐美君、助六の宿貞千代宿主望月友彦氏、齋藤馨、阿部博君。後列向かって右より、大友鴻君、平田修一君、千葉よ志み夫人、佐藤豊子夫人、千葉喜美夫人。（齋藤馨 記）



## 12 農学部第20回生クラス会報告 クラス会

農学部第20回生（入学は昭和43年4月）は昨年の伊豆河津町のクラス会に引き続き、本年は7月3～4日に群馬県伊香保温泉「松本楼」で開催しました。北は北海道から南は高知県より総勢26名の参加を得てのクラス会となりました。

我々のクラス会はこれまでは2、3年に一度程度の開催でしたが、歳も70歳近くとなり、より多くの交流を深めたいという会員の希望のもとに毎年の開催となりました。

群馬の名湯、伊香保の湯にゆっくりと浸かった後、午後6時に開宴となりました。宴会は乾杯の発声で始まり、その後幹事の開会挨拶、報告となりました。今回のクラス会の通知のやり取りで、大切な仲間が亡くなっていたことが分かり、参加者に報告しました。そんな訳で少々暗い辛い雰囲気でのスタートとなりましたが、仲間の近況報告に助けられ徐々に盛り上がり、加えてギター演奏、ハーモニカと笛の夫婦合奏、「スポーツ吹き矢」の講義など、退職後の各自の活躍に接し、みんな良き刺激と思い出を得られたようです。「幹事部屋」での二次会も、ほとんどのメンバーが参加し、真夜中まで盛り上がりました。

当日の記念写真を見ていただければと解りますが、若き(?)奥様が沢山に参加してくれております。そうなんです。

60歳を過ぎた頃より「親睦は奥様と一緒に」という家族ぐるみのクラス会に発展しているのです。ですから夫婦で出席することは勿論、都合のつく限り部屋も男性部屋と女性部屋に別れ、それぞれ交流を深めたところです。

今回、幹事を仰せつかりとても嬉しかったことがありました。クラス会終了後のお礼の手紙の件です。「写真を見た妻が『楽しそうね。行ってよかったわね。』と言ってくれました。」と書いてありました。幹事冥利につける仲間からの礼状でした。会員のみなさん、遠路おつかれさまでした。また会いましょう。

幹事 小島 登 多々木英男 松井 剛



## 13 農学科第6回生クラス会 クラス会

継続して行われているクラス会も今年で22回、毎年7月はじめに開催している。幹事は北関東3県の持ち廻りだが、今年茨城県が幹事役、今まで北茨城の五浦温泉や大洗で開催してきたが、今年筑波山温泉を会場にしたが、遠くは秋田市や春日井市から駆けつけてくれた。

毎年見ている顔で大して変わった様に見えるが、暫らく参加していない人に写真を送ったところ電話があり、何人かの名前と顔が一致しないと言うが、これも齢のせいかな。

今まで古希と傘寿の齢を祝い、記念誌の発行をしてきたが、来年は卒業して60年を迎えるが、栃木県が幹事で盛大に行う予定だ。これから何年続けられるか分からないが、後一回りは出来そうな気がするが、日々目標を持つは元気の元、英気を養って無事次回も顔を見せて欲しい。

幹事 高野 茂



## 14 農学部林学科第12回 クラス会 (昭和39年3月) 卒業「濁り酒会」

最近首都圏の鉄道網は目覚ましく進化し、横浜は関東の

多くの駅から乗換無しで行くことが出来る時代になりました。

そんなことで、今回は平成 27 年 9 月 29 ~ 30 日、観光客で賑わう横浜中華街のド真ん中「ローズホテル」で開催しました。

29 日、早めに集まった 10 人は中華街の開帝廟や何十本もあるお店だらけの通りをぶらつき、派手気味ながら異国情緒あふれる散策を楽しみました。

夜は予定の 14 名が集まり、重慶飯店の中華料理を食べながら、久しぶりに顔を合わせた悪友と悪友同伴の奥様たちとたっぷり話をして十分な満足感でした。

以前は飲み放題セットが主流でしたが、今は健康第一でほどほどかと思ったら、遠路はるばる重たい「濁り酒」の一升瓶持参の友ありて、結局遅くまでの飲み語りは昔どおりでした。

翌 30 日 12 名がホテルから歩き始め、これも異国情緒の山手の洋館群や外人墓地を訪ね、港の見える丘公園からの展望を楽しんでから山下公園へ下り、太平洋航路で活躍した氷川丸を見学したあと、マリーンシャトルに乗って水上経由で横浜駅東口に向かいました。

ポートサイドでランチしたあと、「次回も元気で会おうね」と約束して横浜駅で解散しました。

在学中は演習林をはじめ山の中のをし歩いていて、その後も海とは縁遠いのかと思ったら、木材輸入関連などの仕事で横浜には度々来ていたという話しもあって、港町ヨコハマでのクラス会は好評だったようです。

出席者：井波、大崎夫妻、小野夫妻、菊池、齋、菅原、角田、寺内、西村、増子、依田夫妻

幹事 依田 久司



## 入学式および保護者ガイダンス

平成 28 年度入学式が、4 月 6 日(土)午前 10 時から宇都宮市文化センターで行われ、農学部には、205 名の方々が入学されました。午後 2 時から、大学農学部 3101 教室を開場にして、農学部主催の新生保護者説明会が行われ、200 人近い保護者が参加されました。

同窓会からは、和賀井会長が出席して、同窓会の概要や実施をしている事業の紹介を行いました。夏秋学部長から同窓会の紹介をされる際、保護者会用のパンフレットの表紙写真について、フランス式庭園の池が卒業生によって造られたという歴史的な話に触れていただくと、保護者も興味深そうに写真を見ていました。



## ☆☆ 新生歓迎会の開催 ☆☆

平成 28 年度農学部新生歓迎会を、4 月 8 日(月)午後 4 時 30 分から、大学会館生協食堂において開催しました。混声合唱団の大学歌斉唱指導に始まり、会長挨拶、同窓会や学生支援制度についての説明のあと、夏秋先生の挨拶をいただき、懇親会を行いました。先輩による歓迎の言葉や、美しい歓迎の歌なども披露されました。参加者は 134 名で、教員、院生、学生評議員の参加も多く、盛会でした。

### 新生歓迎会での先輩スピーチ



新生生の皆さん、ご入学おめでとうございます。宇都宮大学の良さと私自身の経験談の 2 つをお伝えしたいと思います。

まず宇大の良さをいくつかご紹介します。まず 1 つ目に、学科の人数が多くないので雰囲気がよく、先生との距離が近いことです。どこかで聞いたことあるかもしれませんが、東京の私大などでは先生と話す機会はなく 4 年間すぎるそうです。宇大の農学部では先生と仲良くなって様々なことが相談できます。2 つ目に 24 時間利用できるアグリコモンズがあることです。パソコンが使える自動販売機や加湿器、新聞などもあって快適です。アグリコモンズの他には、図書館も勉強するには良い感じのところですよ。3 つ目は生協で JR の切符が買えることです。ミニストップの上の支援科で学割が発行できます。それを持って生協に行けば、駅で緑の窓口には並ばなくて済みます。帰省や、旅行に行くときに利用してみてください。さらに、宇都宮自体も住みやすく、いいところだと思っています。都会からいらした方には物足りないかもしれませんが、スーパーもコンビニも多くて、不自由はしないと思います。カフェも多くあります。探して行ってみてください。

次に私の経験談を紹介します。早速ですが、大学生活において私には後悔していることがあります。それは 1 年生の時のサークル活動を、アルバイトが忙しかったことや、お金がかかることを理由にやめてしまったことです。サークルをやっているのといないのでは、人脈の幅が全然違うと感ずます。たくさんチラシをもらって、友達とスケジュールをたてて、いろんなサークルの歓迎会に行き、他学科の友達を作ったり、情報交換をしたりしながら、自分に合ったサークルを見つけてください。

もう一つ、アドバイスをしたいと思います。私は今就職活動真っ最中です。学生時代に頑張ったことや、印象に残って成長できた経験はなにかなど必ず聞かれます。とりあえずいろいろな経験をしたり、新しいことを始めたりしてみてください。

時間割の作り方や、一人暮らしのこと、アルバイトのこと、サークルのこと、いろんな不安や疑問があると思いますが、なんでも聞いてください。皆さんが楽しい大学生活を送れる様にサポートしていきたいと思っています。

(農業経済学科 4 年 秋元麻衣)



## 卒業生便り

さる2月27日に仙台市で東北地区の峰工会会員（農業環境工学科同窓生）の合同の懇親会を開催しました。未曾有の大震災から5年という節目を控え、県域を超えての交流を目的に集まりました。

後藤教授や、水谷名誉教授をお招きし、宮城県支部を始め東北6県等からお越し頂き、総勢27名の参加となりました。被災地の復興状況等の説明や、他県からの支援活動に従事した方との久しぶりの再会等もあり、大変有意義な会を開催することができました。

また、石田学長から農業環境工学科で教員をされていたこともあり、ビデオメッセージを頂きました。参加されたみなさんは本当に楽しんでいました。

今回、僭越ながら私が東北のみなさんにエールを送りたい、ネットワークづくりを側面から支援したいということで呼びかけさせて頂きましたが関係者の皆様のご尽力もあり開催できたこと、本当に感謝しております。

東北で活躍されている同級生のみなさんには今後とも復興に頑張ってもらいたいと思います。

文責 大久保尚彦（環H12）



## オープンキャンパスについて

宇都宮大学オープンキャンパスが7月18日(月)に開催されました。農学部では、学部・学科の説明、模擬授業、研究室紹介パネルの展示、入学相談などがあり、多数の来場がありました。



受付の様子



模擬授業

## 農学部 山根健治教授が「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を授与されました

本学農学部の山根健治教授が、独立行政法人日本学術振興会から「平成28年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を授与されました。

これは、我が国の将来を担う子どもたちの科学する心を育み知的好奇心の向上に大きく貢献した研究者を讃えるとともに、科学研究費助成事業による研究成果を積極的に社会・国民に発信することを奨励するために、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)」において継続的にプログラムを実施した研究者を表彰するものです。

山根教授は「現バイオセンターの環境実験棟を活用した地域貢献のために農学部の本条教授らを中心にしたプログラムです。各プログラムに参画頂きました、本条教授、村井教授、小林教授、夏秋教授、金子教授、飯塚教授、和田教授、房教授、金野准教授、謝助教、鈴木准教授、宮川准教授、研究協力・産学連携課と企画広報課の皆様、加藤徳重様、バイオセンター教員とスタッフの皆様、TAの皆様、地域の参加者の皆様に感謝いたします。今後とも継続しますので、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。」と述べました。



山根健治教授と石田朋靖学長

# 平成 28 年度理事会報告

平成 28 年 6 月 18 日(出) 13 時 30 分より、宇都宮市のホテルマイステイズ 9F ルシールにて平成 28 年度理事会が開催された。以下に項目別に議事内容を記載する。

## 1. 開 会

司会の大栗行昭常任理事より、構成員数 122 名のうち、出席 49 名、委任者 25 名、合計 74 名で、会議が成立していることが報告された。

## 2. 物故者への黙祷

理事会の開催に先立ち、物故者への黙祷を行った。

## 3. 同窓会長挨拶

和賀井同窓会長から、熊本地震に対する同窓会の対応や、被災された方へのお見舞状を送付したことなどが説明された。また、今年の 11 月 19 日に第 4 回ホームカミングデーが開催されることをうけ、同窓会としても、同窓生の多数の参加を望んでいるとの報告があった。

## 4. 議長選出

議長は慣例により、満場一致で、和賀井峰ヶ丘同窓会長が選出された。

議題は 5 件であった。

## 5. 会務報告

吉澤緑理事長より会務に関して報告がなされた。支部総合会計 11 件、常任理事会 13 件、宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会などその他会議 8 件、大学入学式などのその他行事 5 件、同窓会報 154 号の発行、支援制度として、学部長表彰 1 件、学生支援制度 5 件があったことが報告された。質疑等は特に無かった。

## 6. 平成 27 年度決算報告及び監査報告

謝 肖男常任理事より平成 27 年度決算の報告があった。歳入については、新学部への定員抛出により農学部への新入生数が減少したため、会費が昨年度より減少していること、基本財産特別会計から一般会計への繰り出しは行われなかったことが報告された。歳出に関しては、ほぼ例年通りであることが報告された。名簿発行特別会計に関しては、例年通り、一般会計からの繰り入れが行われたことが報告された。財産目録については、これまで運用してきた国債が満期を迎え解約したこと、同額を 5 件の定期預金としたことが報告された。続いて、中島教博監事より、監査報告があり、会計書類等が適正であることが報告された。質疑では、玉城昌幸理事より、現在の同窓会の入会率に関して質問がなされ、吉澤 緑理事長より、約 70% であること、入会していない学生の保護者に入会のお願いを資料(学生支援制度の説明など)添付して送付し、入会率を向上させる取組みが行われている事が報告された。次いで、外山武比古東京支部長より、決算書の一般会計における歳入・歳出額が一致していないとの指摘がなされた。これに対して、謝肖男常任理事ならびに吉澤緑理事長より、記載された額に問題はないが、今後、資料の体裁を改善する必要があることが説明された。さらに、大久保尚彦理事より、在学中の学生に対して、OB や O G が就職などのアドバイスをする機会を同窓会で設定するといったような事

業は行っていないのかとの質問があり、吉澤 緑理事長より、授業などで就職支援に関する取組みが行われており、その中で同窓生が関与しているものがあると説明がなされた。最終的に、本決算書は、会場からの拍手をもって承認された。

## 7. 役員改選

平成 28・29 年度の理事について、すでにブロック別の選挙が行われており、資料に結果が記載されていることが報告された。また、理事長、常任理事については、新たに、理事長として杉田昭栄氏、常任理事として、安藤益夫氏、大澤和敏氏を委嘱することが会長より提案され、拍手を持って承認された。

次いで、会長および副会長の人事に関して、吉澤 緑理事長より説明があり、各学科の理事から代表を 1 名選出し、専任された理事、吉澤前理事長とともに別室にて協議した。その後、吉澤前理事長より結果が報告され、引続き、和賀井会長、竹永副会長に留任をお願いしたい旨報告され、拍手により承認された。

## 8. 平成 28 年度事業計画(案)

吉澤緑理事長より、1) 理事会の開催、2) 常任理事会の開催、3) 新入生歓迎会の開催、4) 「峰ヶ丘会報」の発行、5) 各支部総会への出席、6) 農学部への協力支援、7) ホームカミングデー共催、8) 学生評議会の開催、9) 「学生支援制度」の実施、10) 教員会員への「教員研究支援制度」の実施、11) その他(大学等への支援)を事業として行うことが提案され、拍手により承認された。

## 9. 平成 28 年度予算(案)

謝肖男常任理事より平成 28 年度の予算案の説明がなされた。始めに、資料の体裁について、今後検討する必要がある旨、説明がされた。一般会計の歳入において、利子収入が前年度より大きく減少しているが、国債が満期を迎え、今年度からは国債の金利が激減した関係で国債の運用ができずに定期預金へ変更されたことによると説明がなされた。また、一般会計の歳出は、例年通りであることが報告された。基本財産特別会計では、一般会計への繰り出しが予定されていること、名簿発行特別会計では、本年度は一般会計からの繰り入れが予定されていないことが報告された。質疑は特に無く、拍手によって承認された。

## 10. その他

特になし。すべての議事が終了し、14:45 に閉会した。

次いで、15:00 より懇親会が、小笠原 勝常任理事の司会により開始された。始めに和賀井睦夫会長より挨拶があり、次に顧問である石田朋靖学長より祝辞があり、大学の現状について説明がなされた。引続き、顧問である夏秋知英農学部長より農学部の現況が説明された。次に、竹永博副会長より、話題提供として、JR 東日本の新幹線で配布されているトランパール 5 月号に峰ヶ丘講堂が掲載されていることが紹介された。次に、星 恒徳福島支部長の発声で乾杯が行われ、懇親会が開会された。中締めでは、出席者の最年長である、中根淑夫理事のかけ声で万歳三唱が行われ、散会した。

文責 会計担当理事 石栗 太



## 会 務 報 告

### 1. 支部総会等の開催

2015. 7. 11 茨城支部総会：竹永副会長  
2015. 9. 3 栃木県庁支部総会：和賀井会長他 4 名  
2015. 9. 12 岩手支部総会：安藤先生  
2015. 9. 26 宮城支部総会：小笠原理事  
2015. 11. 20 群馬支部総会：大栗理事  
2015. 11. 21 秋田支部総会：房理事  
2015. 11. 28 福島支部総会：田村理事  
2015. 11. 28 新潟支部総会：竹永副会長  
2015. 12. 4 宇大支部総会：和賀井会長  
2015. 12. 5 栃木県高校教職員連絡会：和賀井会長  
2016. 1. 30 埼玉支部総会：竹永副会長

### 2. 常任理事会等の開催

2015. 7. 13 第 1 回常任理事会及び引継会  
2015. 8. 28 第 2 回常任理事会  
2015. 9. 10 宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会  
2015. 9. 18 第 3 回常任理事会  
2015. 10. 30 第 4 回常任理事会  
2015. 11. 18 第 5 回常任理事会  
2015. 12. 4 第 6 回常任理事会  
2016. 1. 20 第 7 回常任理事会  
2016. 1. 29 学生評議員会  
2016. 2. 23 宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会  
2016. 2. 29 第 8 回常任理事会  
2016. 2. 29 農学部ホームカミングデー実行委員会  
2016. 3. 9 第 9 回常任理事会  
2016. 4. 8 第 10 回常任理事会  
2016. 4. 8 農学部新入生歓迎会  
2016. 4. 15 農学部ホームカミングデー実行委員会  
2016. 4. 27 第 11 回常任理事会  
2016. 5. 9 第 12 回常任理事会  
2016. 5. 10 全学ホームカミングデー実行委員会  
2016. 6. 3 農学部ホームカミングデー実行委員会  
2016. 6. 8 第 13 回常任理事会  
2016. 6. 18 平成 28 年度理事会

### 3. その他の行事

2015. 7. 5 教育学部同窓会定期総会：和賀井会長  
2016. 3. 24 宇都宮大学卒業式：和賀井会長  
2016. 4. 6 宇都宮大学入学式：和賀井会長  
2016. 4. 8 農学部新入生保護者説明会：和賀井会長  
2016. 5. 9 平成 27 年度会計監査

### 4. 「峰ヶ丘同窓会報」の発行

2015. 10. 1 第 154 号発行

### 5. 支援制度

- 教員教育研究支援制度（学部長表彰副賞） 計 1 件  
学生支援制度（学費支援・学部長表彰副賞） 計 5 件

以上会務報告

## 会長委嘱理事（平成 28 年度）

- 理事 長 ○杉田 昭栄（畜 51）  
常任理事 生物資源科学科 小笠原 勝（農 54）  
房 相佑（農院 H 5）  
応用生命化学科 謝 肖男（生化 H 16）  
農業環境工学科 ○大澤 和敏（環 H 11）  
農業経済学科 ○安藤 益夫（経 54）  
森林科学科 石栗 太（森 H 9）  
(○印：新任)

## 平成 28・29 年度理事・監事

- 理事（53 名）
- |               |               |
|---------------|---------------|
| 関谷 治男（農 19）   | 金敷 裕史（経 H 9）  |
| 菊地 正憲（農 45）   | 佐藤麻由美（経 H26）  |
| 高橋 滋（農 48）    | 中根 淑夫（獣 20）   |
| 木村 陽一（農 50）   | 青木 知義（畜 36）   |
| 川口 桂市（農 55）   | 植木 保夫（畜 40）   |
| 植木与四郎（農 58）   | 遠藤 彰夫（畜 51）   |
| 川原 直人（生植 H 7） | 橋本 良巳（畜 54）   |
| 鷲尾 一広（生応 H 7） | 影山 修平（生動 H 7） |
| 上田 正人（生応 H 8） | 星 一美（生動 H11）  |
| 九鬼 レイ（生植 H27） | 渋井 亨（土 25）    |
| 浅野 富雄（林 25）   | 大野 敬治（工 39）   |
| 杉山 栄（林 36）    | 富田平四郎（工 41）   |
| 小松 茂夫（林 45）   | 福田 靖夫（開 54）   |
| 斉藤 倫明（林 55）   | 荒井 真一（開 58）   |
| 津布久 隆（林 58）   | 五月女寛行（環 H 7）  |
| 渡辺 和男（林 60）   | 大久保尚彦（環 H12）  |
| 岩上 真美（森 H 8）  | 森島 史明（環 H25）  |
| 大橋 洋二（森 H 9）  | 羽生 愧（化 24）    |
| 木野本 亮（森 H12）  | 加藤 秀正（化 40）   |
| 五味仙衛武（経 23）   | 宇田 靖（化 45）    |
| 伊澤敬一郎（経 29）   | 杉田 和之（化 50）   |
| 玉城 昌幸（経 35）   | 渡辺 正夫（化 51）   |
| 津谷 好人（経 45）   | 柴山 雅子（生化 H 7） |
| 関川 元樹（経 50）   | 川島 美幸（生化 H 8） |
| 國谷 渡（経 51）    | 三柴 祥子（生化 H 9） |
| 野口 隆夫（経 55）   | 高橋 廣美（総農 42）  |
| 黒後 貞夫（経 H 7）  |               |

### 監事（3 名）

- 田中 秀幸（化 43）  
立壁 敏夫（林 46）  
稲見 定幸（経 H 8）



理事会の様子

お悔やみ

下記の方々のご冥福をお祈り致します。

平成 27 年 8 月 1 日～平成 28 年 8 月現在までの物故者  
(H：平成)

※事務局で把握しているものの掲載です。

農学部

- 農 10：神谷 正
- 農 17：渡辺 正
- 農 17：中山 保
- 農 19：小島 式朗
- 農 22：長谷川和夫
- 農 26：阿久津一成
- 農 30：大崎 清見
- 農 31：田村 吉之
- 農 31：阿部 静司
- 農 34：琴寄 忠男
- 農 36：佐藤 哲
- 農 11：永田 泉
- 農 17：七原 博
- 農 18：瀧田 勝美
- 農 22：大庭 寅雄
- 農 23：渡辺 由勝
- 農 30：稲葉 敏英
- 農 31：片岡 隆
- 農 31：望月 祐一
- 農 33：菅原 浩治
- 農 36：小森 文夫
- 農 46：高松 健一

林学科

- 林 18：藤田善衛門
- 林 20：米山 定雄
- 林 23：大貫 孝三
- 林 24：枝 加郎
- 林 30：佐藤 幸男
- 林 31：貝森 俊夫
- 林 32：吉澤 光三
- 林 38：村関 英二
- 林 39：石塚 寿郎
- 林 39：麦倉 義雄
- 林 50：金沢久美子
- 林 18：岩下 勉
- 林 22：網代 昭
- 林 24：平塚 和夫
- 林 26：紺野富右治
- 林 31：石井 二郎
- 林 32：松本 繁
- 林 32：磯飛 光
- 林 39：石川 勝也
- 林 39：田中 宣男
- 林 41：猪野 晃
- 林 51：瀬畑 健雄

農業経済学科

- 経 10：上田 剛三
- 経 17：片山 恒一
- 経 19：石田 榮宏
- 経 23：大木 秀夫
- 経 24：若林 正
- 経 30：小林 貞男
- 経 36：関 和章
- 経 37：遠藤 英文
- 経 47：平塚 裕二
- 経 57：小森 透
- 経 16：渡辺 長吉
- 経 18：阿部 喜一
- 経 22：瀬戸 満
- 経 24：相田 四子
- 経 28：池田 和夫
- 経 31：三浦 栄一
- 経 36：山本正司郎
- 経 41：高杉 健治
- 経 52：増淵 潤

獣医畜産学科

- 獣 18：小澤 武次
- 獣 23：高久啓二郎
- 獣 28：枝野 一二
- 獣 28：斉藤 陽
- 畜 29：猪狩善三郎
- 畜 29：田中 洋一
- 畜 30：佐藤 正幸
- 畜 33：阿久津和平
- 畜 33：山井 新二
- 畜 35：田仲 英雄
- 畜 63：湯田 守英
- 獣 22：天田 富穂
- 獣 23：押久保三男
- 獣 28：倉澤 恒夫
- 獣 28：山高 英夫
- 畜 29：小林 博夫
- 畜 29：大塚 隆一
- 畜 30：八木 司
- 畜 33：長沢 茂吉
- 畜 35：新井 啓司
- 畜 41：齋藤 勝久

農業工学科

- 土 23：渡邊 一良
- 土 24：伊藤 信行
- 土 24：持木 秀
- 土 25：千葉 禹内
- 土 26：斉藤 利之
- 工 30：松岡 正夫
- 工 34：大村 隆
- 開 51：瀬畑 健雄
- 土 23：中山 秀夫
- 土 24：太田 修二
- 土 24：能登 良治
- 土 25：大原 芳夫
- 工 28：小林 與清
- 工 31：綱川 学
- 開 45：加藤 禮二
- 開 H 5：熱海 博一

農芸化学科

- 化 23：岩崎 重昭
- 化 25：長谷川重孔
- 化 30：春山 正男
- 化 33：内藤 昭吉
- 化 36：新井 一三
- 化 43：玉造 正
- 化 46：奈良 唯夫
- 化 24：原田 泰男
- 化 25：渡辺 優
- 化 31：阿部 貞夫
- 化 34：遠藤 衛男
- 化 38：谷口 通章
- 化 45：池田 誠直

総合農学科

- 総農 30：関野 洋一
- 総農 35：宇梶 公光
- 総農 40：長川 康夫
- 総農 34：加瀬 睦郎
- 総農 37：緑川 嘉一
- 総農 42：水谷 洋

名誉教授 若林 荘一

会員数及び会費納入状況

(大正 15. 3 卒～平成 28. 3 卒)

会員数

	旧 制	新 制	計
卒業者数	3,560	14,991	18,551
物故者	2,613	946	3,559
現会員数	947	13,823	14,992

会費納入状況

	旧 制	新 制	計
現会員数	947	13,823	14,769
納入者数	800	11,468	12,268
納入率	84.57%	82.96%	83.07%

在学生会員数及び会費納入状況

	学 部	大学院	計
在 学 生 数	891	116	1,007
会費平均納入率	66.6%		

(平成 25. 4 入学～平成 28. 4 入学)





支部長一覽

トピックス



宇都宮大学開発の技術により海外に輸送された  
栃木県産完熟イチゴが国際味覚審査機構 (iTQi) で  
優秀味覚賞を受賞しました!

—国内産青果物における初の快挙!—

宇都宮大学は、大学発ベンチャーであるアイ・イート株式会社と共同で、本学が開発したイチゴの高品質輸送技術を用い、栃木県内産の完熟イチゴを国際味覚審査機構 (iTQi: プリュッセル) が主催する Superior Taste Award (優秀味覚賞) に出品し、優秀味覚賞 3 Golden Stars を受賞しました。

本学が開発した個別包装容器「フレシェル (Freshell) ®」は、50 ~ 80g 程度の大型イチゴを、果実表面に触れることなく容器内に固定・格納することができ、輸送中も容器壁面等にイチゴが接触することがないため、イチゴの外観品質及び内部品質を保つ期間を大幅に延長することを可能にしました。本学発ベンチャーであるアイ・イート株式会社は個別包装容器「フレシェル (Freshell) ®」の量産化技術を開発し、販売を担当しています。

今回この本技術を用いて、栃木県産完熟イチゴを 2016 年度の国際味覚審査機構 (ベルギー、ブリュッセル) に出品し、世界の著名な数々の調理師協会、国際ソムリエ協会に属する味覚のエキスパートたちの中から更に厳選された審査員 25~30 名による審査の結果、第一印象および外観が非常に美しく、香り、食味、食感が素晴らしいとの非常に高い評価を受け、Superior Taste Award 3 Golden Stars (優秀味覚賞三ツ星) を受賞することができ、宇都宮大学が開発した包装技術および輸送技術、高品質輸送に関するノウハウの高さを実証することができました。国産青果物として優秀味覚賞三ツ星受賞は初の快挙であります。



## お祝い

このたびは、おめでとうございます。

## 叙 勲

H 24 春	旭日小綬賞	総農 32	山崎 隆晴
H 25 春	瑞宝小綬賞	林 20	岩川 幹夫
H 26 春	瑞宝小綬賞	化 39	前田 英勝
H 26 春	瑞宝双光賞	農 37	高野 義文
H 27 春	瑞宝小綬賞	農 36	故小森 文夫
H 27 春	瑞宝小綬賞	経 38	古橋 光弘
H 27 秋	瑞宝小綬賞	林 38	安藤 昭雄
H 27 秋	瑞宝小綬賞	林 41	田村 輝穂
H 28 春	瑞宝小綬賞	林 36	杉山 栄

## 昇 任

守山 拓弥（農業環境工学科 准教授）

## 農学部栄誉賞

## 教 員

平成 27 年度農業農村工学会大会講演会優秀ポスター賞

田村 孝浩

平成 26 年度日本緑化工学会賞論文賞

執印 康裕

平成 28 年度

日本農薬学会奨励賞及び望月喜多司記念奨励賞

謝 肖男

日本 LCA 学会第 7 回奨励賞

菱沼 竜男

公益社団法人砂防学会論文賞

執印 康裕

## 学 生

農業農村工学会関東支部奨励賞

樋口 慶亮

関東畜産学会優秀発表賞

鈴木 なな子

Undergraduate Student Award

今泉 椋

学生&企業研究発表会「藤井産業賞」

市川 才羅

栃木信用金庫理事長賞

伊藤 正倫 他

生態工学会講演論文賞

山崎 優司

日本木材学会優秀ポスター賞

Agung Prasetyo

日本木材学会優秀女子学生賞

相蘇 春菜

日本家畜管理学会優秀発表賞

田尻 龍平

日本農芸化学会トピックス賞

三井 美彩

学生森林技術研究論文コンテスト林野庁長官賞

坂本 祥乃

日本木材保存協会優秀ポスター賞

田中 裕基

## 慶弔についてのご連絡

峰ヶ丘同窓会会員の慶事および弔事の際には、会員の方々からのご連絡に基づいて対応しております。慶弔事が発生しました際には、下記事務局までご連絡ください。

## I. 慶事（褒賞、叙勲等）の場合

1. 受章者、受賞者の氏名、年齢、卒業年次、学科、住所、電話等
2. 受章、受賞の種類（褒賞、叙勲その他の賞の種類）
3. 受章、受賞の日時

なお、叙勲のご連絡は、新聞などに掲載されますが、学歴まで記されておられませんので、事務局で判断し掲載することができません。関係各位からのご連絡により、ご報告とさせていただきます。何とぞご了承のほどをお願いいたします。

## II. 弔事の場合

会員、会員以外の顧問・元顧問、現職教員、元教員が対象となります。

1. 逝去者の氏名、逝去日、卒業年次、学科、住所、電話等
2. ご遺族（喪主）の氏名（逝去者との続柄）
3. 通夜の日時、場所
4. 告別式の日時、場所

なお、事務局宛にご連絡がない場合、当方からの郵便物の送付を中止できませんので、何とぞご了承のほどをお願いいたします。

●連絡先：峰ヶ丘同窓会事務局  
TEL：028（649）5400  
E-mail：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp  
月・水・金 9：00～17：00

次回会報発行日程  
原稿締め切り日のお知らせ

同窓会では、皆様からの情報をお待ちしております。

会報次号の発行は、2017年7月初旬の予定です。原稿の締め切りは、4月30日となりますので、宜しくお願いいたします。

## 編 集 後 記

第 154 号となる本報から、編集のお手伝いをさせていただきました。同窓生の皆様と大学をつなぐ橋渡し役をしていく所存です。今後とも記事の寄稿等、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。（大澤）



# こんなこと

## やっています (その10) 応用生命化学科

応用生命化学科は生物生産科学科・応用生物化学コースを前身として、平成25年に新設された学科です。本学科では、生命の営みに関するさまざまな事象を“物質の流れ”という観点から学び、理解していきます。授業では、基本的なツールとしての化学に加え、生物やその他の領域も総合的に学ぶことで「生命」を理解することを重視しています。そして、真に豊かな暮らしを支える科学技術の発展を図るための基本的・応用的な教育研究を行い、生命・食品・環境の分野で問題解決に積極的に取り組むことのできる人材を養成することを目的としています。

応用生命化学科には、現在学部学生が約150名、大学院学生（修士・博士）が約30名在籍しています。これに対して、教職員が計18名（バイオサイエンスセンター教員5名を含む）の体制となっており、お互いの顔が大変見えやすい環境となっています。本学科の教育プログラムでは、1年次に基礎無機化学、基礎有機化学、基礎生命科学などの講義を配しており、化学の基礎を学びます。あわせて、農学部コア実習、農業と環境の科学、生物資源の科学などの農学部共通の必修科目を受講し、農学の基礎や専門的な学問の学び方などを身につけます。2年次から3年次にかけては、生物化学、食品化学、応用微生物学などをはじめとした専門科目を配し、応用生命化学に関して深く学びます。同時に基礎化学実験、応用生命化学実験を通して、化学的な実験手法や結果の解析法について学びを深めます。4年次では研究室に所属し、個別の研究課題についてより実践的な研究を行います。新学科設立にあたってはこれらに加え、実際に手を動かしながら理解を含める学びを基盤として、演習や実習を通じた新たな取り組みを行っています。1年次後期より、約1年間にわたり化学演習（実際の化学の設問を多く解く実践的内容の演習）の授業を配しています。ここでは、自ら設問に解答することで、化学的な思考力を強化することを目指しています。新入生セミナーにおいては、食品の化学特性をわかりやすく体験できる実習を行い、食の安全や加工に深い見識をもつ人材の育成を目指しています。



現4年生、3年生と教職員

本学科は新設後4年目を迎えることから、来年3月に第1期の卒業生を送り出すこととなりますが、より良い人材を輩出するべく教職員一同努力しているところです。卒業生の皆さまのご支援、ご鞭撻、ご指導をなにとぞよろしくお願いいたします。

(文責：応用生命化学科 蕪山由己人)

食品加工実習の風景



学生実験の風景



- ◆その1 附属農場 会報第145号
- ◆その2 雑草科学研究センター 会報第146号
- ◆その3 バイオサイエンス教育センター 会報第147号
- ◆その4 里山科学センター 会報第148号
- ◆その5 附属演習林 会報第149号

- ◆その6 農業環境工学科 会報第150号
- ◆その7 農業経済学科 会報第151号
- ◆その8 森林科学科 会報第152号
- ◆その9 生物資源科学科 会報第153号